

楽器を作ろう♪

岩手県立盛岡農業高等学校 ○阿部和馬、菊池浩、竹花成也
三浦光、八木田聡司、八木田真広

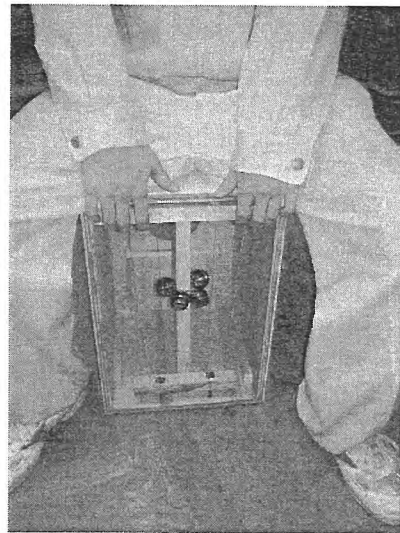
1 はじめに

森林科学科の森林文化コースでは、木工やクラフトの学習をしています。身近な森林資源の活用法を模索していたところ、多くの楽器が木を材料としていることに気づきました。そこで、木工の基本的な技術を身に付けることを目的として、楽器の製作に取り組むことにしました。

2 研究の方法及び経過

まず、インターネットを利用して、世界の民族楽器について調べました。その中から、加工が容易な楽器をいくつか取り上げ、製作できるか検討しました。その結果、カホン、ハンドシェーカー、コンガ、弦楽器の製作に取り組むことにしました。

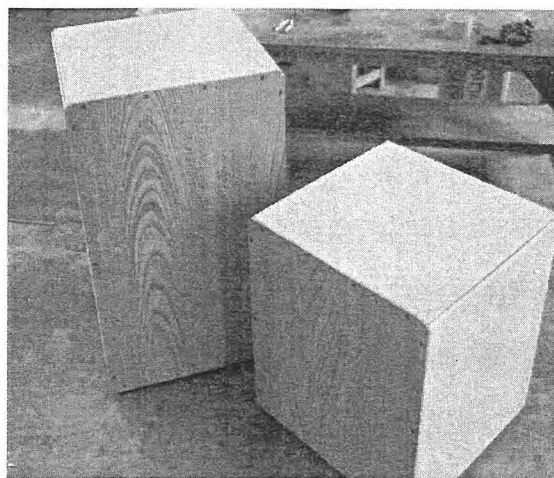
カホンは実物から構造を調べて参考にしました。ハンドシェーカーは画像を参考にして、身近にあるクルミとトチノミを利用しました。コンガは本体を八角形にし、作りやすく工夫しました。弦楽器は馬頭琴を手がかりにして、ギターのように弾く楽器としました。



3 研究の結果

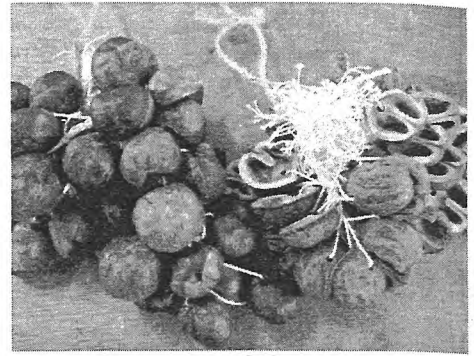
(1) カホンについて

カホンを作るのは、初めてのことであったので戸惑いながら製作しました。苦労した点は、外枠を製作するところと弦を張るところです。外枠は、形が崩れないように接着するのが大変でとても苦労しました。弦を張るところでは、化粧合板と弦が離れすぎても、くっつきすぎても響かないので、ちょうどいい場所を見つけることが大変でした。



(2) ハンドシェーカーについて

クルミの殻とトチノミー一つ一つに穴を開ける作業が大変でした。予想以上にいい音が出ました。



(3) 弦楽器について

弦の張力に負けないようにネックとボディを接合する点に気がつかれました。また、製作時間が少なくて大変でした。楽器を作るときに1つ1つの行動が遅く、積極性がないせいで完成予定を大幅に遅らせてしまいました。



(4) コンガについて

円い筒を作るのは難しいので、両端が45度の板4枚と90度の板4枚を組み合わせて8角形にしました。

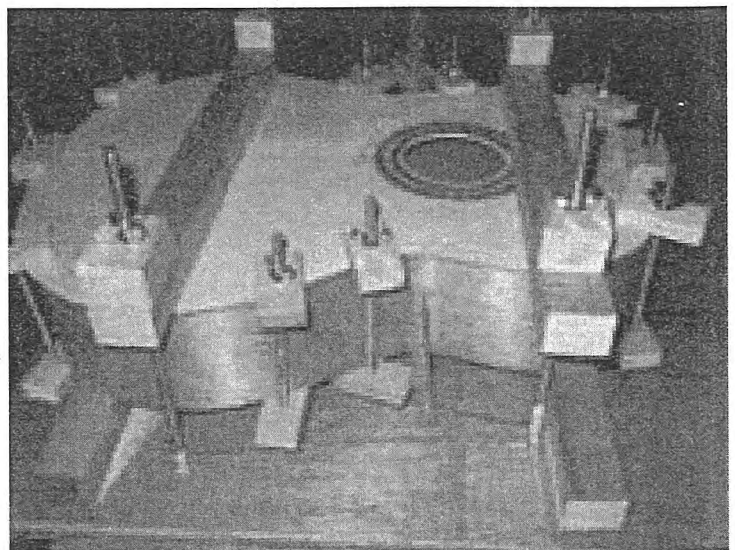
材料はおもに廃材を使いました。打面には動物の皮を使うのですが、大変高価なので代わりにあるものを探し、身近にあったアクリル板が一番おもしろい音が出たので代用しました。最後に叩きやすいようにスタンドに固定しました。

4 今後の課題

今回は木工用ボンドと木ねじだけで組み立てましたが、木材の接合方法は様々です。小型の電動工具による接合技術を身に付け、さらに間伐材を利用した楽器づくりに取り組みたいです。

間伐材の利用促進に大きく貢献できるとは思いませんが、木材を身近に感じ、生活に潤いをもたらす方法として有効であると思います。

また、ギター本体の加工には木の板を曲げる技術が必要となりますが、伝統工芸の技術を学び、応用することで、新しい楽器づくりにも挑戦できるのではないかと考えています。



5 むすび

それぞれの楽器には歴史があり、長い年月の間にその材料や製作工程が吟味され、確立してきたものと思います。県産木材が楽器に適しているかどうかはさておき、生活を楽しむ道具を木材で作ることには大きな意味があると思います。木のおもちゃ、木の道具が見直されている現代で、新たな木材の活路を開けるよう、これからも継続して研究していきます。

